

ささきだより

令和7年
4月8日発行
佐々木 千鶴

ご進学、ご進級おめでとうございます。今年も新たなスタートが始まります。

新たな環境で、ドキドキワクワクする子もいれば、ハラハラソワソワしてしまう子もいる新学期。子どもたちも保護者の皆様も、色々な緊張モードのこの時期でもありますよね。私たちは、子どもたちにとってオアシスであり伴走者になれるよう努めて参りたいと思います。これからまた1年どうぞよろしくお願いいたします。

《2年ぶりにお伝えします☆新年度は不安もいっぱい！

だからこそそのお願いです！》

進学・進級を迎えるという事は、子どもたちの環境がガラリと変わります。

学校に行くことだけでも発達に心配りを必要とする子どもたちにとっては、大人が思うよりも、ずっと大きな緊張感や疲労感を抱えています。親は当たり前前に当たり前のことが、できるようになってほしいですね。（自分のことは自分でするなど）

ですが、通うのは本人です。登校渋りや、当日の朝に不調を訴えて学校を休んだり、起きれない等々…自己調整をするには、まだまだ経験も足りないし、大人のサポートが必要です。経験不足だから責任感を持つということも難しいです。（積み重ねが大切です）

子どものために思って心配をしたり、できることが増えてほしいと提案をしたり…そうですね、それも当然です。

なのですが…親の要求が今のお子さんの身の丈に本当に合っていますか？

心配や期待のあまり押しつけになっていませんか？

言う通りにできないと褒めるポイントはないのでしょうか？できて子どもは褒めてもらえますか？

一番の理解者になってあげられるのは特に親元にいる間は、やはり親なのだと思います。

子どもに要求や指示をする際は、結果だけを見ずに要求水準を下げて、取り組もうとした姿勢から褒めてあげてください。苦手な事をやらなければいけない。わかっているんです本人が一番。そこを応援して労ってあげてください。指摘ばかりされていては自信は持てません。

誰に褒められたら、認められたら嬉しいか…褒めてくれる一番身近な大人は親です。問題点に目を向けるだけではなく今のお子さんの、できていること、頑張ろうとするその姿勢にぜひ目を向け、それを言葉で伝えてあげてください。大げさではなくて良いんです。甘やかせともいいません。山本五十六のように「やってみせ、言って聞かせ、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば人は育たず」です。

（子育てにも通じる言葉ですね）

学年が1つ上がったから、〇歳だからできて当然！とは、いかないのです。

子どもの笑顔が親にとってのビタミン剤です☆

そして、お父さんお母さんの認めてあげる言葉や笑顔が子どもにとってのビタミン剤です☆

同じ親として、そして療育者として佐々木からの、お願いです。

ぜひ肯定的な言葉をかけてあげてくださいね☆私も、改めて心がけます。

管理者 佐々木 千鶴